

公表

## 事業所における自己評価総括表

事業所名	発達応援団ピュアキッズ	
事業種別	放課後等デイサービス	
保護者 評価実施期間	令和8年 1月 4日 ~ 令和8年 1月 20日	
従業者 評価実施期間	令和8年 1月 4日 ~ 令和8年 1月 20日	
事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 27日	
保護者評価有効回答数	【対象者数】 59	【回答者数】 35
従業者評価有効回答数	【対象者数】 10	【回答者数】 10

## 分析結果

- 利用者から評価されていること
  - ・子どものペースを受け入れてくれてるので安心して通えている。
  - ・面談での聞き取りがていねいで、ディでの姿もよく見てくれているのがわかる。
- 課題
  - ・個人ノートの記入がある日とない日がある
  - ・工作の活動に少しマンネリ化を感じる。
- 評価されている要因
  - ・半年に1度、30分以上の面談時間を設けている
  - ・子供の特性に合わせて、カリキュラムを設定している
- 課題の要因
  - ・子供を優先的にみている為、記入できる時間が限られている
  - ・制作内容は変えているが、材料が似ていたりする
- 課題を改善するための方法
  - ・できる範囲で記入を行っていくが、子供が最優先である事をお伝えしていく
  - ・使用する材料まで考えて、活動内容を工夫していく
- 利用者の声（利用する子どもの声）
  - ・楽しんで通所している
  - ・スタッフの言葉づかいが優しく、あたたかい雰囲気をつくってくれている
- 保護者のニーズについて
  - ・保護者会の開催と、情報共有の場を定期的に設けてほしい
- 保護者・利用者のニーズを実現する方法
  - ・必要に応じて、保護者のニーズに合った保護者会を開催していく

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	発達応援団ピュアキッズ	公表日			ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		8年	3月	18日			
事業種別	放課後等デイサービス	利用児童数			59	回収数	
					35		
	チェック項目	回答					
		はい	わからない	いいえ			
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	11		・新しいスペースになり、良くなりました ・統合してから教室を見ていないので分からない ・合同になったので以前より1人あたりのスペースは狭くかんじているらしい	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	28	7		・統合してから教室を見ていないので分からない ・合同になったので以前より1人あたりのスペースは狭くかんじているらしい ・場所が移ってからわからない	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。	29	7		・統合してから教室を見ていないので分からない ・子ども目線でビル入口に看板(ポストでも)があると良いと思う	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	33	3		・統合してから教室を見ていないので ・時間より早めに到着している子がただ外で立って待っているだけなので椅子を置いてくれたり、どうしても中へ入れないのであればスタッフひとりが対応してくれると良いと思う	来所時間を周知し、時間通りの通所をお願いする。必要に応じて、対応を行う。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	33	1	1		
	6	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	30	2			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成されていると思いますか。	35			・面談での聞き取りがでいいいで、ディでの姿もよく見てくれているのがわかる	
	8	個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	31	4			
	9	個別支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	35	1			
	10	事業所の活動プログラム(※3)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	29	5	1	・工作がびんを作ったのが多い。全体的には良いが少しマンネリ化を感じる。 ・身体を動かすプログラムや療育的なあそびが増えるとうれしい	・様々な体験ができるようプログラムの見直しを行う
保護者への説明	11	家族に対して、講習会や情報提供の機会等が設けられていますか。	29	5	1	・また講習会などやって頂けたらうれしいです ・少ない	
	12	日頃からこどもの状況を保護者と共有し、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	31	2	1	・個人ノートの記入がある日とない日がある。ない日の方が多。毎回記入して欲しい。様子が分からない。 ・連絡帳へのコメントが少なくコメントが無い時もあるでもう少し様子がわかるとうれしい。毎日が難しい時は1ヶ月に1度でもう少しボリュームのあるコメントを頂けるとうれしい。	子供の対応を最優先としている為、書けない日がある事をお伝えしている。面談や送迎時に、伝えられる事は、口頭でお伝えするよう心がける。
	13	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	33	2			
	14	事業所の職員から、共感的に支援をされていると思いますか。	33	2			
	15	保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族支援の機会が設けられていると思いますか。	22	9	3	・少ない	

等	16	子どもや家族から相談や申入れをした際に、迅速かつ適切に対応されていますか。	32	3			
	17	子どもや保護者との意思の疎通や、情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	31	4		・個人ノートの記入がある日とない日がある。ない日の方が多。毎回記入して欲しい。様子が分からない。	
	18	定期的に配布物・ホームページ・ブログ等で、活動概要や行事予定の情報や、自己評価の結果を、子どもや保護者に対して発信されていますか。	23	8	1	・教室によって差がある。 ・自己評価については良くわからない。	・毎月プログラムのお便りをお渡ししている。 ・毎月ブログを更新しているが、周知不足ではある。
	19	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	31	1			
非常時等の対応	20	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	30	3			
	21	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	30	2			
	22	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	29	2			
	23	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	29	3			
満足度	24	子どもは安心感をもって通所していますか。	31			・子どものペースを受け入れてくれるので安心して通えている	
	25	子どもは通所を楽しみにしていますか。	30	1	1	・楽しんでいます。いつもありがとうございます。 ・大好きです ・スタッフの言葉づかいが優しくあたたかい雰囲気をつくってくれている	
	26	事業所の支援に満足していますか。	31	1		・今後、送迎車サービスが出来たら、より助かるなど感じます	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	発達応援団ピュアキッズ		公表日			8年	3月	18日	
事業種別	放課後等デイサービス								
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員に対して、十分なスペースを確保している。				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		最低人員配置の基準以上配置している。				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	○		刺激となる要素をなくし、必要な情報を提示する事により、障害特性に合わせた情報伝達を実施している。 また、視覚的な手立てを設定し、こどもが生活しやすいよう、配慮している。				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・朝・夕の掃除を徹底し、清潔な環境維持を心がけている。 ・常時、換気をし、空気清浄機を設置して、清潔な環境維持に努めている。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		こどもの状況に応じて、個別に使用できる部屋を用意している。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		PDCAサイクルを意識した運営をし、職員全体で情報共有している。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者からの意見は職員全体に回覧する等、チームで把握する事で、業務改善につなげている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティング等を通じて、職員の意見を把握し、職員同士の相互理解につなげている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者に適格な者がいない為、未実施。 但し、行政（横浜市）による実地指導の結果を元に業務改善を実施している。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員の支援力や知見の向上を目的に、公認心理師による研修を定期的実施している。				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		5領域をもとにした支援プログラムを立案し、実施している。 支援プログラムは毎月、保護者に配布している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか。	○		個別面談の際、アセスメントを行い、内容を職員で共有している。				
	13	個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画を作成する為、事業所の職員全体で会議を実施し、検討した上で作成している。				
	14	個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個人記録に最新の個別支援計画を綴じ、情報共有を図っている。				
	15	こどもの適応行動の状況について、下記を使用する等による確認をしているか。 ①保護者から情報収集した、知能検査・発達検査等を用いたフォーマルなアセスメント ②日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメント	○		必要に応じて、保護者から発達検査の結果を情報共有してもらい、個々の認知特性等を分析し、支援・こどもへの関わりに活かしている。				

適切な支援の提供	16	個別支援計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインに則り、5領域と関連した支援計画を作成。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月、職員間で活動プログラムの振り返りを実施し、それに基づき、プログラムの立案をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		継続性の観点から、固定化したほうが良いプログラムもある為、適時ケースに応じて、最善の活動プログラムを検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動は、保護者ニーズと、こどもの課題に合わせた活動を実施。 集団活動は、生活スキル・社会性の向上を目標に活動を実施。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		デイリーで、ミーティングを実施。 職員配置、カリキュラム内容の確認・留意点等を職員間で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		デイリーで、ミーティングを実施。 当日の出来事、こどもの様子等を共有し、次回につなげる情報共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		当日の様子、自由時間の様子、目標に対しての行動等、具体的な情報を記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年おきに、保護者と面談を実施。 新たな課題や、継続的に行う支援等を判断している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	○			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもがやりたい、やってみたい事に挑戦できるよう配慮している。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参画	
	27	保護者からの求めがある場合等、必要に応じて、就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		該当者がいる場合は、必要に応じて実施。	
	28	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、必要に応じて、それまでの支援内容等の情報を提供する等をしているか。	○		該当者がいる場合は、必要に応じて実施。	
	29	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	30	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		子どもの送迎時や電話・メール等で、情報共有をしており、共通理解を持つよう努めている。	
	31	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる講習会や情報提供等を行っているか。	○		保護者講習会を開催し、ペアレントトレーニングや、ABAの方法等を周知している。	
	32	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について説明を行っているか。	○		契約の面談時に説明をおこなっている。 利用者負担は変更がある都度、手紙を配布し周知している。	
	33	個別支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	34	個別支援計画を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか。	○			

	35	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者が気軽に相談できるように、メールや連絡ノート等のツールを活用している。また必要に応じて、電話や面談等も実施している。	
保護者への説明等	36	保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		年に1回以上、保護者会を開催し、保護者同士が交流する機会を設けている。	保護者会の案内を配布しているが、情報が浸透していない点が課題。紙での通知以外に、メール配信での通知も必要。
	37	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		活動中のトラブルなどは、極力具体的に周知している。今後、苦情があった場合などは、適切に対応していく。	
	38	定期的に、配布物、HPやブログ等を活用することにより、活動概要や行事予定を、子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、活動スケジュール、ブログにて活動概要の情報発信を実施。また自己評価の結果はHPにて毎年公表している。	
	39	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は、鍵付きの書庫にて管理している。職員に対しては、雇用契約時に、情報管理についての説明を実施。	
	40	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		極力、子どもに合った伝達方法を実施している。	
	41	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		運営規定にマニュアル化したものを添付して保護者と共有をしている。年に1度、子どもと一緒に避難訓練を実施している。	
	42	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎年8月末～9月上旬の週に避難訓練を実施。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時、保護者と子どもの健康状況を共有して、必要に応じて、指定の様式に記載してもらっている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時、保護者から受けた指示に基づき、対応している。	
	45	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に安全管理に関する研修を実施。	
非常時等の対応	46	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		周知している。	
	47	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		デイリーのミーティングで、ヒヤリハットの洗い出しを行い、共有している。	
	48	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		法人・管理者が主体となり、虐待防止に関する研修を実施。	
	49	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、必要に応じて、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、個別支援計画に記載しているか。	○		他害や危険な行為が見られる等については、保護者と相談し、対応を共有し、必要に応じて、個別支援計画へ記載している。	